

グループファシリテートのために がんサロンでのよりよいコミュニケーションのために



ピアサポーター養成テキスト

P.45～59(V章 ピアサポートの活動と実践)

P.61～80(VI章 がんサロンで起こりうる事例と対応のヒント)

グループでのピアサポート（がんサロン）

- テキスト5章

グループでのピアサポート活動

- テキスト6章

がんサロンで起こり得る事例と対応のヒント
DVD（対がん協会）対応

<http://www.gskprog.jp/news/3689/>

よりダウンロード可



本研修会の「がんサロン」

- 開催場所：病院を想定
- 参加者：メンバーを固定しない、5-10名程度
- 運営者：病院スタッフ
- グループ進行役：ピアサポーターが行う

※ がんサロンの在り方は様々です

上記は研修内容の前提となる定義であり、

他の運営方法を否定するものではありません

がんサロンの準備・開催（5章）

- 以下の原則に基づいて書かれています
 - 利用者が安心（傷つかない）ように配慮する
 - 利用者の意向を尊重する
 - 体験を共有し共に考える場である
 - 治療、心理ケア、問題解決が“目標”ではない
 - 開催場所（病院）にも配慮し理解を求める
 - 唯一の正しい運営方法はない
- 原則を理解し、個別の事情に合わせて準備・運営

がんサロン運営の準備

- 開催の準備、広報
- 場所の準備（環境、休憩室など）
- グループや進行役の人数
- テーマを絞ったグループにするか
- サロンのルール

がんサロンのルール（例）

- サロン外で参加者の情報を話さない
 - ここにいる人以外のことを話題にしない
 - 治療のことは医師に相談しサロンで相談しない
 - 健康食品や健康器具などを薦めない
 - 宗教団体への勧誘はしない
 - 意見を押し付けず、相手の考えを聞く
 - 平等に話せるよう、お互いに気を配る
-
- 参加者を守る、開催場所の責任者への配慮
 - 読み上げる、書いて渡す、貼っておく

がんサロンで起こり得る事例と 対応のヒント（6章）

- 以下の原則に基づいて書かれています
 - 初参加、緊張している利用者への配慮
 - 公平な発言機会
 - 発言しない自由
 - 参加者が傷つかないような配慮
 - 進行・時間の管理
- 原則を理解し、個別の事情に合わせ準備・運営

特定の参加者だけが話をする

【対応1】話をさえぎり、ルールを説明する

- 一度話をまとめ、話の内容を尊重
- 「他の人の話も聞いてみましょう」

【対応2】ルール違反の合図

- 事前にルールの説明をしておく

【対応3】参加者のやり取りに任せる

- 無理に仕切ろうとしない
- 全体を俯瞰し、話題に参加できない人を探す

発言しない参加者がいる

【対応1】 一度話してもらい、後は流れに任せる

- 自己紹介などで順に発言、後は指名しない

【対応2】 話題を選びときどき氏名

- 自己紹介内容などから話題を選択
- 「○○さんもそういうことをおっしゃってましたね」

【対応3】 事前に意思表示

- 受付で「聴くだけ」参加を選べるようにする
- 話したくなったら話してもらってもOK

参加者間で意見・話題がかみ合わない 話したいことは共通だが、考えが対立する

【対応1】 それぞれの考えを受け止める

- 平行線の場合、一度意見をまとめてみる
- 他の参加者の反応にも注意

【対応2】 意見が異なることを認め、話題を変える

- 「正解」がないテーマで、全体の興味が薄い場合

【対応3】 他の参加者に意見を求める

- 「正解」がないテーマで大切な話題

参加者間で意見・話題がかみ合わない 話したいこと自体がズレている

【対応4】 一致できる点、共通の話題を探す

- 再就職に関する話題、退職後の活動に関する話題
→知人に病気をどう話すかの話題を提案するなど

【対応5】 グループを分ける

- 一定の人数がいるなら途中でもグループわけする
- 人数が少なければ個別に配慮

考えを強く主張し続ける参加者

【対応1】考えを押し付けないように注意する

- 主張内容を尊重「重要なお意見ですね」
- 話題の転換
- 「時間がありますので、他の話題もしてみましよう。時間があまればまた伺いますね」
- 「いろいろな立場の意見がありますね、今は結論出せないかもしれませんが。〇〇さんには後で伺えますか」

【対応2】グループに分ける

- 話し合いたい話題が違う場合に準ずる

意見がまとまらないことは進行役の不幸ではありません

感情を強く表す参加者

【対応1】感情を出してもらい全員で共有する

- 悲しさ、不安、怒り 感情をあらわしてもよい場所
- 泣いた人が気まずくならないよう声掛け
- 他の人の反応に注意する

感情を強く表す参加者

【対応2】 個別に対応する

- 強く感情的になってしまう場合は個室に移るなど
- 進行役以外のスタッフが必要
- グループに残った方のデブリーフィング
- 「先ほどの〇〇さんがおっしゃっていたこと、皆さんはどう感じました？」

医療スタッフへの相談も検討

治療や病院の選択に関する話題

参加者の関心が高いテーマだが注意を要する
善し悪しの評価、個別の治療適応は避けるべき
医療者とのトラブル、患者の不利益につながる

【対応1】 ルールに定めて逸脱があればさえぎる

- 「すみません、その話題は興味深いのですが、サロンで話し合うルールから外れるようです」

治療や病院の選択に関する話題

【対応2】 さえぎらないが同調しない

- 「今のは〇〇さんのご意見ですね。他の考え方もあるでしょうし、状況によりますよね」

【対応3】 個別相談に切り替える

- 「〇〇さんにとって大切なお話だと思いますが、ルールにもあるようにサロンの皆で話し合うのはやめましょう。この後に別に少しお話ししせんか？」

病院内開催では重要な問題であり、トラブルの元サロンとしての態度は明確にしたほうがよい

がんの再発や死に関する話題（再発）

【対応1】 語り合いの話題の一つとして扱う

- 再発不安や死の恐れは珍しくない話題
- そう感じるのは自分だけでない、対処法など
- 再発している患者が不快に感じないか注意
- 再発している参加者がいるかも伝える

【対応2】 グループにわせる

- 再発不安、再発後の話題を安全に話し合いたい場合

がんの再発や死に関する話題（再発）

【対応3】 再発経験者が個別に話を聴く

- 再発直後の混乱している時期など

【対応4】 経験豊富な人が個別に話を聴く

- 再発し感情的に混乱している参加者への対応は大変
- 再発していない人は「ピア」ととらえられないことも
- 十分聴き、必要があれば再発した人の対応を紹介も

【対応5】 専門の窓口を紹介する

- 状況の理解が不十分、これからの方針を知らないなど

がんの再発や死に関する話題

参加者の死に関する話題

【対応1】 隠さないで話し合う

【対応2】 質問をうけたときだけ答える

- サロン運営スタッフだけが知っている情報を参加者に伝えていいのでしょうか？
- 参加者同士の噂話としてならよいのでしょうか？
- 本人の遺志や遺族が伝えてほしいといった時は？

【対応2】 ここにいない人のことは話題にしない

- わかりやすいが、参加しないと忘れられると感じる？

がんの再発や死に関する話題 ご遺族にどう対応するか

【対応1】 遺族の会を活用する

【対応2】 遺族の参加を断る

- ルールが明確
- 連続性？ 家族参加していたが急に参加できなくなる
- 数が集まらないと遺族の会開催が難しい

【対応3】 サロンのお手伝いとして参加いただく

「がんサロン」の運営

- 利用者が安心できる（傷つかない）ように配慮する
- 利用者の意向を尊重する
- 体験を共有し共に考える場である
- 治療、心理ケア、問題解決が“目標”ではない
- 開催場所（病院）にも配慮し理解を求める
- 唯一の正しい運営方法はない

※絶対の正解はありません

また、考えながら変えていくこともできます